



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。



日本農業新聞の読みどころ

週刊ダイジェスト

2021年7/24～30付

主食米最大6.5万トン削減

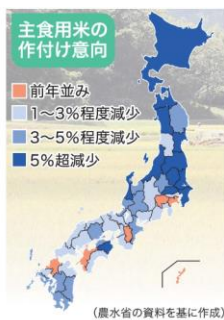
21年産 適正水準ほぼ達成

農水省は20日、2021年産の主食用米の作付面積が、前年実績より最大6.5万トン程度減る見込みになったと発表した。同省が需給均衡に必要な同6.7万トンの削減をほぼ達成した。一方、21年産米の需給の目安となる2020年6月末の民間在庫量は210万トンの見通し。適正水準の180万トンを上回り、作況などによっては余剰感が出る可能性もある。

需要量、想定下回る

同日の食料・農業・農村政策審議会食糧部 末の民間在庫量は210万トンの見通し。2月時点では10万トンの減り、2月時点の見

コロナ



農水省が示した米の需給動向のポイント

- 21年産の作付けは前年実績比6.2万～6.5万トン減
- 平年作の場合、生産量は694万～696万トンの見通し
- 20年産の需要量実績は704万トンで、見通し(711万～716万トン)を下回る
- 21年6月末の民間在庫量は219万トンに設定
- 21年産の需要量は703万トンに設定
- 22年6月末の民間在庫量の見通しは210万トン

農水省は2021年産の主食用米の作付面積が、前年実績より最大6.5万トンほど減る見込みと発表しました。需給均衡に必要な6.7万トンの削減をほぼ達成。作況が平年並みであれば、生産量は694万～696万トンの予想。ただ、22年6月末の民間在庫量は210万トンの見通しで、適正量を大きく上回り、今後の作況などで余剰感が出る可能性もあり、余談を許さない状況です。

(7/30付1面)

改正農協法施行後5年の見直しが事実上決着しました。その経緯を自民党国対委員長の森山裕氏が、連載企画で回顧しています。「私も農協について詳しくないが、それでもひどいじゃないかと感じた。農協の歴史や役割を正しく理解していない。(中略)組織の話が政府が強制的にやらせるのは、いかなるものかという意見が強かった。監査も規制改革会議が実態を理解していない顕著な例だと思う」と振り返りながら証言しています。(7/27付3面)



自民党国対委員長 森山 裕氏 ①

回顧 農協改革 ①

農協の役割 疎通に腐心

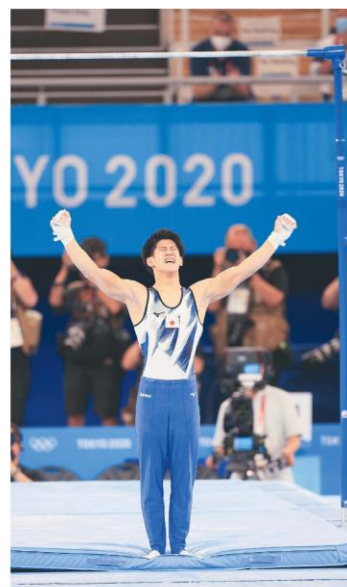
「2014年5月、政府の規制改革会議が『農業改革に関する意見』を発表した。JA中央会制度の廃止やJA全農の株式会社化、JAの准組合員の利用制限などを提起した。私も農協についてそんなに詳しいわけではなかったが、それでもひどいじゃないかと感じた。農協の歴史や役割を正しく理解していないのではないかと。中央会制度を廃止して、農家の農産物を扱う全農が株式会社化して利益追求だけにしたい。准組合員の利用を規制して農耕地域が維持できるのか、とか。事前にこんな内容になりそうだったというシグナルはなかったと記憶している。これはど天き話になるかと思っ

た。農協が利益を上げるには、農協の在り方も見直し、さらに効率よくする必要があると考えたのかもしれない。だが、おかしくないが多かった。『新農政』における農協の役割に、関係するプロジェクトチーム(座長の森山氏、農林幹部、インテリゲンチヤ、農林省の森山氏)が規制を議論。森山氏との調整を担った。組織の話を政府が強制するのはいかにがなるものかという意見が強かった。農協は協同組合だから、自主的に判断すべきこと。その一方で、当初から議論が進んだ。すり合わせをしないといけない。調整がたかさんあった。誰と調整したか、言うのは控えたが、農協が果たしている役割について正しく伝え、対立ではなく理解をいただかない

といかないと思った。『6月に決定した「与党取りまとめ」は同会議の案を一定に押し返したが玉虫色の表現。同会議は11月、全中の一般社員法人化やJAへの公認会計士監査義務付けを提起した。農協の監査も、規制会議が実態を理解していなかった顕著な例だと思う。農協の破綻を防いできた農協監査主制度という優れた制度を否定するような話だ。准組合員と合わせ、弱体化させようという視点もあったかもしれない。全中が一社化しても、現実にはそうならなかったが、規制の話を政府が強制するのはいかにがなるものかという意見が強かった。農協は協同組合だから、自主的に判断すべきこと。その一方で、当初から議論が進んだ。すり合わせをしないといけない。調整がたかさんあった。誰と調整したか、言うのは控えたが、農協が果たしている役割について正しく伝え、対立ではなく理解をいただかない

今週の記念日

★8月3日「八丁味噌の日」 江戸時代から愛知県岡崎市八帖町(旧八丁村)で造り続けられる「八丁味噌」。伝統の製法から生まれる酸味や渋みを含む独特な味わいや美味しさ、奥深さをより多くの人に知ってもらうのを目的に、八丁味噌協同組合が制定。日付は8で「八(8)丁」、3で「味(3)噌」を連想して記念日に決めました。



高難度の大技を次々と成功させた鉄棒の演技を終えて
ガッツポーズの橋本選手（東京都江東区）

大きく輝く「満点」

体操・個人総合 橋本選手「金」



体操日本代表の橋本大輝選手19は28日、個人総合で鉄棒の金メダルを獲得した。五輪王者誕生の陰には、農家で祖母の久子さん(82)の存在がありました。橋本選手は久子さんの料理が幼少期から大好物。競技の傍ら3月まで育苗など実家の稼業を手伝い、五輪の大舞台に臨みました。(7/30付17面)

手料理の祖母「おめでとう」

実家は農家 今春も育苗手伝い

「スーパードライで野菜を買ってきても、私の料理以外、一切口を付けようとしなさい」(久子さん)ほど、橋本選手は祖母の久子さんの料理が大好物。特に自家製の野菜がたっぷり入ったカレーライスや、マーマレードから揚げが大好きだ。お風呂から帰った後、お風呂に入ると、思い出すのは、体操に夢中になり取り組んでいた日々。中学校卒業までの約10年間、地元で育った橋本選手への送迎に久子さんが付き添った。孫のために農作業の合間を縫って、今は橋本選手の祖父が運転する車に久子さんが同乗。いつものように見守り続けた。

金メダル確定の瞬間、久子さんはテレビの前でおめでとうとおめでとうと叫び、涙を流して喜びをかみ締めた。橋本選手の父で兼業農家の久一さん(54)は「うれしーの一言、途中で涙が溢れちゃった。最後は決めた。きょうは満点の出来だ」と、興奮気味で話した。

実家は、1・8畧の農地を持つ水稲農家。たまたま、快挙をたたえた。(前田大介)

「農協ごはん」発売

きょうJAタウンなどで



JA全農と子会社のJA全農ラドファは、パックご飯の新商品「農協ごはん」を29日に発売する。JAタウンで先行販売し、東北・関東を中心とした小売り店舗でも販売する。手軽さから市場が拡大しているパックご飯の販売を通じて、米の消費を拡大する。

JA全農と子会社のJA全農ラドファは、パックご飯の新商品「農協ごはん」を、東北や関東を中心に小売販売します。強火の大釜で炊き上げ、余分な水分を飛ばす「シャリ切製法」でおいしさを追及しました。(7/29付8面)

米先物本上場 基準満たさず

農水省

大阪堂島商品取引所が農水省に申請した米の先物取引の恒久的な「本上場」への移行について、同省が認可基準を満たしていないと判断していることが26日、分かった。試験上

場中の実績などを踏まえた。近く同取引所から意見を聴取した上で「本上場」への移行に最終的に判断する。米の先物取引は2年間の期限付きで試験上

場中の実績などを踏まえた。近く同取引所から意見を聴取した上で「本上場」への移行に最終的に判断する。米の先物取引は2年間の期限付きで試験上

場中の実績などを踏まえた。近く同取引所から意見を聴取した上で「本上場」への移行に最終的に判断する。米の先物取引は2年間の期限付きで試験上

場中の実績などを踏まえた。近く同取引所から意見を聴取した上で「本上場」への移行に最終的に判断する。米の先物取引は2年間の期限付きで試験上

大坂堂島商品取引所が申請した米の先物取引の恒久的な「本上場」への意向について、農水省は「認可基準を満たしていない」として、8月5日に同取引所から意見聴取します。市場参加者数と十分な取引量が見込める論拠を示せなければ、不認可となる可能性が高くなります。(7/28付3面)

日本農業新聞 東北支所 支所長 齊藤将実

猛暑と共に、心配された新型コロナウイルス禍での東京五輪が開幕しました。日本選手の活躍ぶりに、平時ならもっと盛り上がったのにと、感じてなりません。野球やサッカー、バスケット、ゴルフ等のプロ選手だけでなく、世界レベルの競技者が増えたと実感。そんな姿に、日本の農畜産物も「負けずに世界市場で勝ち残る」と、夢が膨らんできました。

